

1 単元名 「お店を開こう」 (生活単元20時間 自立活動30時間)

2 単元目標

単  
元  
目  
標

○わくわくフェスタでのお店のイメージを膨らませて、みんなでお店を開くためにやるべきことを考えることができる。

○友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞いたり、自分なりの考えを持ったりすることができる。

○お店を開くという目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで協力して創り上げていく楽しさを味わう。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」  
手立て・・・子どもの思いや願いの育ちを見とった単元構想と授業づくり  
ブロックテーマ「感じる心、気持ちを伝える自分」

<聴く・話すについての実態と指導>

4月から様々な場面で小さなことでもみんなで決めてきた。自分の意見を出したり、意思表示をしたりすることで話し合いに参加するという経験を重ねてきた。今までの経験から「みんなで決める」ことを大切にしており、自分の思いを素直に表すことができる子が多い。また、個学の「話す・聴くルール」として、話し手を見る・最後まで聴く・みんなの方を向いて話す・みんなに伝わるように話す・考えにできるだけ理由をつけることを大切にしてきた。それぞれの考えを聞きながら、話し合いを進めるうちに、一生懸命に話す子の話を最後まで聞こうとする姿、友だちの意見を聞いて、自分の考えを変えたり、友だちの良い考えを取り入れようとしたりする姿が見られるようになってきた。また、高学年の子が話す姿を見て、話の内容が分からなくても自分の意見を伝えたいという思いを持って話す低・中学年の子どもの姿も見られるようになった。

<個学の中での関わり合い・ひびき合い>

今年度の生活単元学習では、最初に何をやりたいかを相談した時に「今年もお店屋さんをやりたい」という思いが子どもたちから出てきた。お店をやりたい子どもたちは、なぜお店をやりたいのか理由も加え、みんなに伝えている。自分たちの経験を生かして意見を伝えることで、聞いている友だちも同じ経験をしているため、イメージが伝わりやすいのだと思う。意見に対して、「いいね。」や「えー。」などと反応し、自分の思いを伝えることができる。また、今までの話し合いの中で自分の意見を伝えると、友だちが受け止めてくれることやみんなで協力すると楽しくなるということを経験してきている。どの子も自分なりの表現方法で思いを伝えようとし、聴いている子も何を言おうとしているのか受け止めながら、聴いている。高学年の子は、今までの生活経験をもとに下学年の子に分かるように伝えようとしている姿が見られる。

4 単元と指導

<単元について>

本単元では、昨年お店を出し、お客さんに喜んでもらったという達成感から、さらに今年もお客さんを喜ばせたいという思いをもって、話し合いを進めてきた。「お家の人だけでなく、友だちも来て欲しい」や「地域の人にも来て欲しい」という意見からみんなが「いろいろな人と関わりたい」という思いを持っていることを感じた。ほとんどの子どもたちがお店を経験していることから、昨年以上にお客さんに喜んでもらうためには、どうしたらよいかを考え、そのためにはどんなことをしていってよいかという学習の見通しを子どもたちと確認して、この単元がスタートした。

## <指導について>

### ① 単元における指導観・願い

生活単元学習では、生活に根ざした学習を取り入れてきている。生活経験や発達年齢が違う子どもたちにとってお店に対してのイメージは一人ひとり違うが、PTA主催で毎年行われる「わくわくフェスタ」は、どの子も参加したことのあるイベントである。そのため、一人ひとりがイメージするお店が、共通の土台となっている。自分たちもそのお店の1つとして、参加できるということでわくわくしている子がいる反面、自分たちだけでパーティーをして楽しみたいという子もいたが、7月から話し合いを始め、「お店をやりたい」という子の思いを聞くことで、全員が「お店をやりたい」と感じるようになっていった。去年は、自分たちで作ったものを売ることがメインだったが、今年は「わくわくフェスタ」の内容が変わることを話したところ、自分たちが作ったものを売だけでなく、「物作りの体験をお客さんにやってもらいたい」という意見が出た。そのため、「販売」と「体験」の両方を進めていくことになった。お店の名前や値段を話し合ったり、お店に必要な物を相談したりする中で、だんだんと自分たちのお店のイメージが持てるようになり、お客さんのことを考えた発言をするなど、一人ひとりが真剣に考えている様子が少しずつ見られるようになった。そして、自分たちの思いの実現に向けて一人ひとりが考えて意見を伝えたり、友だちの意見を聞いて自分なりに考えたりすることができる姿を大切にしていっていった。また、自分たちが楽しいという満足だけでなく、相手（お客さん）の気持ちを考えるなどの相手を意識した言動を学ぶ機会と考え、子どもたちに投げかけていった。

### ② ひびき合いについて

毎回、話し合いでは、この時間に話し合うことを明確にしてきた。しかし、子どもたちの発言や話では、聞いているみんなに伝わりにくいことも多い。そこで、聞いている子の表情を見ながら、子どもたちの話を分かりやすい言葉で再度伝えたり、具体的に絵や図に表したり、実際の物を見せたりするなどイメージを持ちやすくしながら話し合い活動を進めるようにしていっていった。活動の中では、友だちの動きや言葉を見て、良いところを見つけ、真似ることも大切にされた。初めてのことに不安がある子もいるので、友だちのやり方やがんばる姿を見て自分からやってみようとする気持ちをもって取り組んでいた。さらに、友だち同士で声をかけたり、助け合ったりする姿も見られた。本時では、初めてお客さんを想定して、体験コーナーの練習をした。やってみる中で、まだ練習が必要であることを感じたり、準備不足の部分を見つけたりした。子どもたちが練習を通して困ったことを共有して、お客さんをより喜ばせるためにはどうしたらよいか、一人ひとりが考えを伝え、解決していくために友だちの意見を聞いて考える姿をひびき合いの姿とした。

5. 単元総括 個学 生活単元学習 単元名「わくわくフェスタでお店を開こう」(生活単元学 20時間+自立活動 30時間)

単元のねらい  
 わくわくフェスタでのお店のイメージを膨らませて、みんなでお店を開くためにやるべきことを考えることができる。  
 口友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞いたり、自分なりの考えを持ちたりすることができる。  
 口お店を開くという目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで協力して乗り越えていく楽しさ味わえる。

**今年は何をしようかな？①②③**  
 ・お楽しみ会(ハロウィン・クリスマスパーティー)をしたい。  
 ・お祭り通園に行きたい。  
 ・お誕生会・お別れ会をしたい。  
 ・発表を育てたい。  
 ・お店屋さんをやりたい。

話し合ったことが後々異なるように、児童の考えを記録したものを活用する。  
 話し合いへの集まりが良かったり、内容の理解が深かったりする児童には、個別に声をかける。

話し合いの中で、自分がやりたい活動を考えたり、決断したりできる。  
 友だちが決断した活動について考え、自分の意見が言える。

**9月からの活動について考えよう④⑤**  
 わくわくフェスタでお店をしよう。  
 ・今年も楽しみたいから、またやりたい。  
 ・お祭りの人々だわ。小さな子ども、大きな人に来てほしい。  
 ・お話し合いも楽しみたいから、準備をしよう。  
 ・今年も誕生会から、準備をしよう。  
 ・発表もしたい。みんなも楽しんでほしい。  
 ・自分もがんばる準備をしよう。  
 ・お楽しみ会(ハロウィン・クリスマスパーティー)はやらせよう。  
 ・やるなら、わくわくフェスタを準備しよう。

話し合いの際には、相手の「聞く・話す」ルールをもとに伝えるように声をかける。  
 みんなに伝えるときには、できるだけ理由も考えさせ、一緒に考えるようにする。

話し合いのルールが守れたが、自分の意見に理由をつけて決断できたが、

**どんなお店にしたい？⑥**  
 ・お祭りが楽しんでもらえるお店、みんなの心がホカホカになるお店、可愛くて、本物みたいなお店、小さな子どもも喜んでもらえる店、林檎のできるお店もやりたいな、色々準備しなきゃ!

活動の支援は相手の特性に応じて行う。  
 一緒に力を合わせたり、役割分担をしたりして、相手のみんなでも協力して行う。

自分のできる範囲まで、準備に関わることができたが、友だちと協力して仕事が出来たが、

**お店の準備は何をしたらいいかな？⑦**  
 ・品物を作らなきゃ! みんなに喜ばせる物を作ろう! 林檎は何にしよう?  
 ・お店の名前は? い(5)で覚えるの?  
 ・お店の看板を作ろうよ、お店の練習もしないと。

今年のわくフェスタは無料の体験コーナーがメインなんだって!  
 ・相手の特性に応じて、活動内容を定める。特に、お金の贈り物については個人差があるので、相手の興味に合わせて支援する。  
 ・色々な役割を交代しながら、全員の仕事をできるだけ経験できるようにする。  
 ・力を合わせたり話し合いなどで進めていく。  
 ・グループでの作業が必要な場合は、メンバーの観察や指導を考慮して、グループワークを行う。  
 ・林檎をみて思ったことからはじめる方が考えられるようにする。  
 ・お店のイメージがわくよう準備の予定をする。

**品物は何を作るのか？⑧**  
 ・ブランコのキーホルダーやアイロンビーズが人気だったよ、ビーズのブレスレットや指輪もよがるよ、スライムが売れそうね、スーパーボールもいいね、さっそく作ろう!  
**作ってみよう(自立活動)**  
 ・ブランコでキーホルダーを作ったよ、アイロンビーズで大小の色々なものが出来たみんなに使って欲しい、キーホルダーやマグネットしたら? ビーズでアイロンビーズも作ってみたい、い(5)で覚えるの?

**お店の名前は？⑨**  
 ・お祭りが楽しんでもらえるお店、みんなの心がホカホカになるお店だから「すまいる」にしよう

**林檎は何にしよう？⑩**  
 ・簡単で時間が経たないものがいいね、スライムがいいね、スーパーボールが作りやすいよ、ビーズアサカセサリーも簡単だよ、林檎はいいからにするの?

**体験はいくら?何で覚えるの？⑪**  
 ・1回10円にしようよ、3回分の友だちはお金を持っていないから無料にしようよ、何回できるの? た(5)で覚えて欲しい、材料が足りないよ、た(5)の人に楽しんでほしい、一人1回にしよう、ビーズは材料が高いから、材料で覚えないよ、やめよう、作ったものはい(5)で覚えるの?

**スライムとスーパーボールを作ってみよう⑫**  
 ・スライムとスーパーボールをつくってみよう  
 ・スライムは簡単で楽しいね、スーパーボールも作りやすいよ、先生たちに林檎してもらって練習しよう、準備しなきゃ!

**スライム体験コーナーの準備をしよう⑬**  
 ・コップとスプーンを洗ってほしいよ、それじゃ分かんないよ、説明書を作ろうよ、体験コーナーの準備も必要だよ、お店の「すまいる」の看板もいるね、何人で仕事するの? 体験コーナーは4人、教える人1人でどどはサポート、手作りコーナーは準備と説明1人1つ、説明1人で2人にするよ、全員で4人のお店を作ってみたいよ、お店屋さんの練習もしないとね、

**スライム体験コーナーの練習をしよう(本時)⑭**  
 ・た(5)の人が来てくれた、説明が伝わらなかつた、色々はどの(5)で覚えるの? どうい(5)で覚えるの? 先生を覚えよう、もう1回説明の練習をしようよ

**もっと練習をしよう⑮**  
 ・前よりも説明ができたよ、それでも思ったとちい(5)で覚えるの? お客さんが多くて、準備が間に合わないよ、さ(5)に準備できることはないかな? スライムとスーパーボールも両方できるの? 準備が間に合わない、交代する暇もないよ、林檎はスーパーボールだけにしよう、手(5)のコーナーと一緒にお店屋さんの練習をしようよ! 手(5)のコーナーの練習もしたい!

わくわくフェスタでのお店のイメージを膨らませて、みんなでお店を開くためにやるべきことを考えることができる。  
 口お店を開くという目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで協力して乗り越えていく楽しさ味わえることができる。

**お店屋さんの練習をしよう⑯**  
 ・もっと大きな声で言ったほうがいいよ!  
 ・スマイルが足りないよ、丁寧にやらなきゃ!  
 ・グループの人数が足りないよ、グループは何人で決めるの? 時間が長いよ、もっと練習しないと!

**もっと練習をしよう⑰**  
 ・さ(5)できたね、思ったとちい(5)で覚えるの? 「わくわくフェスタが楽しみたいね、

**いくらで覚えるの？⑫**  
 ・値段はい(5)にするの? 1000円にしよう、高くてもいいよ、安くしよう、ブランコとビーズアサカセサリー、アイロンビーズの料金は10円、中は30円、大は90円にしよう、イヤリングは材料が100円から90円にしよう、大人が買えるものもあるかも、

**手作りコーナーの練習をしよう⑱**  
 ・グループを決めて、仕事を分けよう、レジの仕事はどうするの? 志年のレジが覚えよう、全員でい(5)がわからないよ、値札表を作ろうよ、計算機を使ったら? お前日の計算ができないよ、お前日の計算を作ろうよ、計算機を使ったら? レジが読めないからわからないよ、作る暇もないよ、ビニール袋にしたら? お客さんになんと言えたいかな、もっと練習しなきゃ、手(5)の準備はなんというの? 先生を覚えよう、もっと練習しようよ、

**もっと練習をしよう⑲**  
 ・レジの人が忙しいよ、手(5)の準備と説明の人が説明したら? 全員でい(5)が計算できないよ、お前日の計算もできないよ、手(5)の準備が(5)で覚えるよ、林檎コーナーと一緒に練習したい!

**みんなで、協力して「わくわくフェスタ」でお店を開こう!**  
 ・お客さんが喜んでくれて、うれしいね、お店屋さんが増えてよかったね、みんな協力したからできたよ、また、来年もやりたいな、

賞品表をついて、見直しをもって活動できるようにする。  
 練習の時に考えた準備の先生の話を聞いてみる。  
 料金表や賞品表は、レジの仕事がスムーズできるようにする。

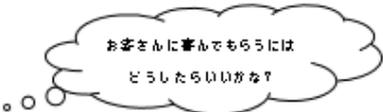
口お店を開くという目標に向かって話し合いをしたり準備をしたりする活動を通して、みんなで協力して乗り越えていく楽しさ味わえる。

6 本時について

(1) 本時目標

体験コーナーの練習をしたり、友だちの考えを聞いたりする中で、体験コーナーの仕事がどうするとより良くなるかを自分なりに考えることができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点(○)・評価(◇)			
<p style="text-align: center;"><b>体験コーナーの練習をしよう</b></p> <p>○体験コーナーの役割分担を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験の説明をする…1人</li> <li>・サポート…2人</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○実際に体験コーナーをお客さんにやってもらい、対応の仕方を考える。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">たくさんの人が来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートの人が「並んでください」と言ったらいと思う。</li> <li>・並ぶ場所も必要だね。</li> </ul> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">説明が伝わらなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明書を読んできたさいって言う。</li> <li>・説明の練習をした方がいい。</li> <li>・困っている人がいたら、サポートの人が声をかける。</li> </ul> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">色はどのくらい混ぜる？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「色は少しです」って言えばいい。</li> <li>・色は一色にする。</li> <li>・たくさん入れるとペットになるって教えてあげる。</li> <li>・説明書に書いておく。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>○次の時間にすることを確認する。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">たくさんの人が来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートの人が「並んでください」と言ったらいと思う。</li> <li>・並ぶ場所も必要だね。</li> </ul>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">説明が伝わらなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明書を読んできたさいって言う。</li> <li>・説明の練習をした方がいい。</li> <li>・困っている人がいたら、サポートの人が声をかける。</li> </ul>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">色はどのくらい混ぜる？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「色は少しです」って言えばいい。</li> <li>・色は一色にする。</li> <li>・たくさん入れるとペットになるって教えてあげる。</li> <li>・説明書に書いておく。</li> </ul>	<p>○前時までの活動を、全体で確認していく。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <p>○お店のイメージを一人ひとりが持てるように、具体物を用意して雰囲気を出す。</p> <p>○子ども達から出てきた意見は、それぞれ受け止めるようにする。また、自分から発言できない子、考えをつぶやいている子どもに声かけをして、安心して発言できるように促す。</p> <p>○個学の「話す・聞く」ルールをもとに行えるように教師・支援員が声かけをする。</p> <p>○初めての役割に戸惑ったり、困ったりしたこともみんなで共有して、どうしたらよいかを考えるようにする。</p> <p>○役割を見ている児童には、お客さんの気持ちになって、どうすれば良いかを考えさせたい。</p> <p>○子どもの聞き取りにくい言葉は、うまく補助して、みんなに伝えるようにする。</p> <p>○何を話し合っているか、分からなかった子には、側で分かりやすく説明するなど、一人ひとりに合った支援をしていく。</p> <p>◇わくわくフェスタでのお店のイメージを膨らませて、みんなでお店を開くためにやるべきことを考えることができる。</p> <p>◇友だちと活動したり、話し合ったりする中で、友だちの考えを聞いて自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。</p>
<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">たくさんの人が来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートの人が「並んでください」と言ったらいと思う。</li> <li>・並ぶ場所も必要だね。</li> </ul>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">説明が伝わらなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明書を読んできたさいって言う。</li> <li>・説明の練習をした方がいい。</li> <li>・困っている人がいたら、サポートの人が声をかける。</li> </ul>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">色はどのくらい混ぜる？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「色は少しです」って言えばいい。</li> <li>・色は一色にする。</li> <li>・たくさん入れるとペットになるって教えてあげる。</li> <li>・説明書に書いておく。</li> </ul>		

7 実践を終えて

<単元全体を通して>

生活単元学習では、「みんなで決める」ことを大切にしており、みんなの意見を聞いて決めることを積み重ねていくことで、今回の単元でも自分の思いを素直に表している様子が見られた。それぞれの子どもたちの考えを聞きながら、話し合いを進めるうちに、一生懸命に話す子の話を最後まで聞こうとする姿、友だちの意見を聞いて、自分の考えを変えたり、友だちの良い考えを取り入れようとしたりする姿が見られるようになった。

自分たちが作ったものをお店を売るだけでなく、今年は新しく体験コーナーを作るということをみんなで決め、子どもたちはとてもはりきっていた。子どもたちが、体験コーナーの練習をしたいという気持ちになるためには、体験コーナーのイメージをより明確にしていくこと、やってみないとわからないという困り感が出てくる必要があると感じた。そのため、お店の名前を考えたり、体験コーナーをスライム作りに決めたりなど、みんなでどんなお店にしたいのか話し合い、土台を作っていた。また自分たちがスライムを作り、たくさん体験することで、手にスライムがつかないような工夫や、たくさんの人が体験してもらえるように時間短縮の工夫などのお客さん目線で考えた発言をする子も次第に多くなっていき、お店のイメージを持てるようになっていった。そうすることで、子どもたちがお店を開くことができそうだという気持ちが高まっていき、練習をしてみようとなった。

<本時の成果と課題>

初めてお客さんを相手に、体験コーナーでスライム作りを教える練習をしてみて、どの子も積極的にお客さんに関わり、教えようという意欲があった。実際にお客さんにスライムの作り方を教えてみて、準備不足や対応に仕方がわからないなどの困ったことがたくさん出てきた。その困ったことを解決するためにどうしたらよいか考え、意見を伝え合っていた。そのことから、本時の学習問題である「体験コーナーの練習をしよう」は、どの児童もお客さんに教えたいという気持ちを持ち、取り組むことができていた。

お客さんを対応している時に、必要なものが無くて慌てている様子があったり、うまく説明が伝わらなかった

りと困り感があっても関わらず、席に座って、改めて困ったことについて話し合おうと、高学年以外の意見が出なくなってしまった。実際に自分たちがお客さんに教えている場面で、子どもたちのつぶやきをひろい、みんなで解決していく必要があり、困り感を取り上げるタイミングが大事であると感じた。また、前時までに説明を全体で話す人・お客さんの横についてサポートしてあげる人の役割を決め、グループ内で確認していたが、どんな言葉をお客さんに声かけするかについては確認していなかった。一人ひとりが役割を果たせるような事前の準備をしてから練習することで、よりお客さんを喜ばせるための工夫について考えられたのではないかと思う。

本時の学習の前までは、体験コーナーを開くことについて自信をもっていた児童だったが、みんなで体験コーナーについての困り感を伝え合ったことで、まだまだ準備が必要であるということを感じ、その後の活動でもお客さんを喜ばせるために意欲的に練習をしたり、さらに工夫したりしていた。わくわくフェスタでは、みんなが一生懸命お客さんのために働いている姿が見られた。